

八千代市一般廃棄物処理基本計画(改訂版)(素案)に寄せられたご意見と市の考え方

No.	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	素案変更の有無	変更後	変更前
1	本編 19	プラスチック類の分別収集の実施に加え、その他の分別方法や出し方の見直しも必要であり、ごみ袋の製造・廃棄・輸送・保管の環境負担を減らすことは重要不可欠と考える。 具体的なごみの出し方の案としては、現在の不燃ごみ袋については廃止し、不燃ごみはコンテナに入れる、またはひもで縛るなどして安全に配慮して出す方法が良いと考える。コンテナでの回収により清掃センター作業員の分別作業効率が上がるとともに、使用済みごみ袋の可燃処分量が削減され焼却炉の負担が減ると考える。 また、流山市などで事例があるリサイクルセンター設置も参考にされたい。	現在、本市の家庭系ごみのうち可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみについては、ごみの減量化や分別の推進、排出量に応じた受益者負担の適正化などから、ごみ処理費用の一部を一般廃棄物処理手数料として排出者に負担いただく有料指定ごみ袋による収集を実施しており、引き続き、有料指定ごみ袋制度を継続してまいります。 不燃ごみのコンテナによる収集やひもで縛っての排出については、ガラス片やネジ等の小さいものの飛散防止の観点などからも指定ごみ袋での排出が望ましいと考えております。 また、バイオマス由来のプラスチックを使用した指定ごみ袋の導入の検討など環境負荷等を考慮したうえで、引き続き、適正な処理を行うことができる体制を確保してまいります。 なお、リサイクルセンターの設置については、以前、本市においても事業実施の検討を行っていましたが、用地確保や事業に要する費用等の要因から、現時点では事業実施を計画しておりません。	無	—	—
2	本編 22	ごみ焼却施設の熱利用をしたプールについて、現在の焼却施設の熱利用効率が悪いと聞いている。老朽化で建て替える時には、もっと熱効率が良いものを作るべきであると考えている。	現在、本市の焼却施設については、延命化を図るため令和11年度から14年度にかけて、基幹的設備改良事業を実施することを予定しております。 基幹的設備改良事業後の次期施設整備の際には、熱エネルギーの有効活用について検討してまいります。	無	—	—
3	本編 22	八千代市の焼却処理施設は1・2号炉は1988年に竣工稼働、3号炉は2001年に竣工し、ともに2014年から2016年に基幹的設備改良工事を行って、さらなる延命化工事を計画している。 しかしながら1・2号炉はすでに36年を経過しており、建物自体の老朽化も進んでいる。延命化工事が完了するころには築40年を超える。 八千代市の市街化調整区域では農業離れが進み、耕作放棄地が増えている。新しいごみ焼却施設は迷惑施設ではなく、むしろ周囲を一体とした地域計画の中に位置づけてまちの活性化につなげる試みなどで先進事例として循環型社会形成推進交付金の増額も図ることができる。 ぜひ新しい場所での建て替えを行い、高効率焼却発電を実現していただきたいと思う。	令和2(2020)年3月に「八千代市一般廃棄物処理施設整備に関する方針」において焼却処理施設の方針を決定する際には、新施設整備事業と基幹的設備改良事業による延命化について、省エネルギー化などの環境負荷や施設整備費、ランニングコスト、用地確保等の観点から総合的に比較検討し、基幹的設備改良事業を実施する方針としました。 いただいたご意見につきましては、基幹的設備改良事業後の次期施設整備を検討する際など、今後の参考にさせていただきます。	無	—	—

No.	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	素案変更の有無	変更後	変更前
4	本編 22	ゼロカーボンシティへの取り組みとして二酸化炭素の発生源としてごみの減量や資源化を行うとあるが、創エネも大切だと考える。新たな太陽光発電は、建物改修や新築の場合はかならず導入し、空き地や作業場、車両基地などにも導入できる。日陰を作ることによって作業効率が上がるなどのメリットも期待できる。 また、廃棄物処理ならではの焼却熱発電やバイオマス発電などの創エネルギー化、または炭化して地中に埋めるなどの手法を導入する方向で検討してほしい。 発電は、二酸化炭素削減になるだけでなく、売電もでき、投資は回収できる。	本市としても、創エネルギー化やCCUS（二酸化炭素回収・再利用または貯留）の取り組みが重要であると認識しております。 今後予定している基幹的設備改良事業においては、省エネルギー化による二酸化炭素の削減を図るほか、新たな太陽光発電導入の検証など環境に配慮した整備を検討してまいります。	無	—	—
5	本編 32・33	令和5年度に1,000tほど主灰を埋立しているが、路盤材として再利用されるというのはご存知だろうか。再資源化の業者に委託して最終処分量を減らしているという事例がある。	本市においても、民間業者に委託し、路盤材等としての再資源化を行っており、令和5年度は焼却残さのうち1,370tを再資源化しました。 今後も引き続き、焼却残さの資源化に努め、計画的に最終処分を行ってまいります。	無	—	—
6	本編 75・83	循環型社会やゼロカーボン社会の取り組みは廃棄物だけの問題ではなく、施設の運営管理やごみの収集、処理するすべての段階での適正な管理整備も求められている。文字でそのことは明記されているが、基礎データとして燃料や電力使用量、発電量、車両なども記載し、現場の人間が意識することが重要だと思う。そのうえで目標値の設定をしてほしい。	今回の素案では、ゼロカーボンシティの達成に向けた取り組みとして、焼却対象量の削減を図るために、プラスチック類の分別収集実施に向けた取り組みなどを掲げており、「廃棄物焼却による温室効果ガス排出量」の数値目標を設定しました。 いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。	無	—	—
7	本編 77・78	家庭ごみの削減については、市民が家庭のごみ箱の中身を確認し、どのようなごみを出しているのか把握し、広告の紙など分別できるものが入っていないかなどを再確認する、自分でできる身近な気づき運動を進めるのはいかがだろうか。	現在、市ウェブサイトや広報紙、ごみ減量学習会、各種イベント等を通じて、ごみ減量に向けた手法等の情報提供や啓発を行っています。 いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。	無	—	—
8	本編 79	粗大ごみが増える傾向にあるのは転入・転出が多い八千代市ならではの特徴であると考えます。 この対策として、まだまだ使用できる粗大ごみも多いため、市でリメイクして販売するという方法もある。実際に実施している市は多々ある。 また、ごみ集積場所に粗大ごみとして置いてあるものをリサイクルする場合は、市民は自由に持ち帰っていいという条例にするのはいかがだろうか。もしくは、明らかに違法に集積場所に粗大ごみを捨てた場合には、より厳しい罰則をつけるというのはいかがだろうか。	現在、本市においては、家庭で不用となった品物情報を収集し、市ウェブサイトや広報紙等に掲載するほか、八千代フリーマーケットの開催を支援し、再利用の場を提供しております。 いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。	無	—	—

No.	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	素案変更の有無	変更後	変更前
9	本編 80	可燃ごみの中に紙類が増えていることは明らかだが、一つの原因としてプラスチックの袋や箱からリサイクル可能な紙袋や紙箱に変更した商品もあるように感じる。 それが可燃ごみになってしまえば残念。資源ごみの日でも雑紙はほとんど出されていない。包装紙や紙箱、はがき、封筒など等雑紙の捨て方をもっと啓発することが必要。	現在、市ウェブサイトや広報紙等を通じて、紙ごみの分別について周知・啓発を行っています。より効果的な周知・啓発方法を検討し、紙ごみの分別の促進に向けて取り組みを進めてまいります。	無	—	—
10	本編 76・81 ・ 資料編 23～36	家庭ごみから出るプラスチックごみの削減が重要だと思う。 最終処分率がなかなか下がらない理由としては、人口増もあることながら、燃やすすしくないごみが多いことがあると考える。 食品やシャンプーの容器、配送サービスでついてくる緩衝材など、世の中にはまだまだたくさんのプラスチック製品があり、食品の容器などはきれいに洗えば分別できる。 プラスチックごみといっても硬いものや柔らかいものなど、さまざまあるので、今後のプラスチックの分別では細部にわたり分別できることを願う。	本市としても、プラスチックごみの削減は重要であると考えております。 現在検討している「プラスチック類の分別収集及び再商品化に係る方針(素案)」を基本とし、プラスチック製容器包装廃棄物とプラスチック使用製品廃棄物の分別収集並びに再商品化の実施に向けて、取り組みを進めてまいります。 また、引き続き、マイバッグの利用やマイボトルの利用などの啓発を行い、プラスチックごみの削減に向けて取り組みを進めてまいります。	無	—	—
11	本編 81 ・ 資料編 23～36	プラスチックごみの分別について賛成する。 ①回収方法は、びん・缶の収集で使用しているタイプのコンテナ、または、ひもでしばって出す方法(ボトルキャップ等の小さいものは中身が見える袋に入れる)、②対象品はプラスチック識別表示品で著しい汚れがない物、③回収頻度は週1回で、びん・缶の収集日に回収する、という方法が良いと考える。	プラスチック類の分別収集については、現状の収集状況、市民の皆さまの分かりやすさや分別の負担、収集の効率性や経済性等を考慮し、①回収方法は、収集袋(市の指定ごみ袋を使用することを前提)、②対象品は、プラスチック素材100%のもの、③回収頻度は週1回(可燃ごみ収集の週3から週2回への変更を前提に可燃ごみ及びプラスチック類の収集日を設定)とする案としております。 なお、コンテナによる収集についてはプラスチック類が風で飛ばされてしまう可能性があることや、収集袋による収集では塵芥車で圧縮して収集することが可能であるため効率的であるという点などから、収集袋による収集が合理的であると考えております。 今後、事業実施に向けて詳細を決定していく中で、いただいたご意見も参考に検討を進めてまいります。	無	—	—

No.	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	素案変更の有無	変更後	変更前
12	本編 81	再くるくん協力店では、卵容器の回収がされているところとされていないところがあるため、どここの協力店でも統一して回収できるようにするべきであると考えます。 他の自治体の事例で、極力、分別を住民自身で行い、収集にかかる人件費を削減したという例がある。分別ステーションのようなものを作り、ものすごい数の分別種類があるという。しかし、あまりの細かさに海外などから観光客が見に来るようになり、小さな村のちょっとした観光スポットとなっているという話がある。 こうしたやりすぎくらいの究極の分別ステーションを八千代市のどこか一箇所に作り、観光スポットとして注目を浴びればシティープロモーションにもなり良いのではないかと考える。	再くるくん協力店での卵容器の回収については、各再くるくん協力店で実施しているリサイクル手法等が異なることから、一律に全店舗で回収を実施するのは困難であると考えておりますが、引き続き、再くるくん協力店における回収品目の充実や新たな店舗の認定など、利便性の向上に向けた取り組みを行ってまいります。 いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。	無	—	—
13	本編 83	超高齢化社会では、ごみ出しを行うのが困難な高齢者が増えてくるのが問題になってくるかと思う。 高齢者の見守りを含めて毎日のように配食サービスを行っている業者に、追加料金を支払えば、ごみ出しのサービスをオプションとして追加するのはいかがだろうか。 今後、ごみ出しが困難な高齢者が増えてくると自治会や自治体、ボランティアに頼むのは限界があるのではないかと考える。	現在、本市においては、自身でごみを出すことが困難な方に対して、介護保険等のサービスやシルバー人材センター、地域のボランティア団体による支援で対応している状況となっています。 今後、高齢化がより一層進むにつれてニーズの増加が想定されることから、引き続き、ニーズの把握に努めるとともに、本市にとって効果的で合理的な支援方法を模索してまいります。	無	—	—
14	—	一般廃棄物処理には、ごみの収集、移動が必要で多くの車両を有している。車の動力としてガソリンや軽油から電気に変えることは、脱炭素に貢献できるだけでなく燃費が驚くほど改善する。 市は2030年までにEV車が売られている公用車の50%をEV化したいとしている。EVごみ収集車もすでに厚木市やさいたま市などで導入されている。ぜひ、廃棄物処理分野でのすべての公用車の50%EV化を目標値にかかげ、実現を目指してほしい。	現在稼働しているごみ収集車両については、収集運搬業務受託者が調達した車両を使用しており、これらの車両の耐用年数に応じて、随時、車両の入替が必要となります。 車両の入替時には、EV車の導入効果の検証や収集運搬業務受託者と協議を行ったうえで、EV車の導入に向けた検討を行ってまいります。	無	—	—
15	本編 107	し尿処理に関しては、高度処理型合併処理浄化槽への転換・普及を粘り強く推進していくしかないと思う。	引き続き、公共下水道の整備及び接続の推進、並びに高度処理型合併処理浄化槽への転換・普及など、生活排水処理率の向上に向けた取り組みを推進してまいります。	無	—	—